

→ 本当にあった戦国の城

こたべじょうあと
小田部城跡
(早良区有田)

「小田部城」という戦国時代の城があったことをご存じですか？

戦国大名・大友氏の家臣である小田部氏の居城「小田部城」は、地名や古い記録から、現在の県立福岡講倫館高校の北側あたりにあったとされていましたが、詳細は不明でした。ところが、近年の発掘調査によって、戦国時代の大きな溝(堀)が多く発見され、小田部城の姿が少しずつ明らかになってきています。

昨年の調査では、幅3.6m、深さ2.6m、断面がV字形の堀が発見されました。壁が60～70度の急な角度で切り立っているため、落ちたら簡単には上がりません。しかも、堀の底の幅は10数cmしかなく、水が湧き「いぼる」(泥にはまる)ので身動きも取れません。小田部城の守りの固さがよくわかります。

貿易都市・博多やその周辺は、戦国武将たちの争奪の対象として戦火にさらされることもありました。そのようななか、小田部城は地域の防衛拠点の一つであったと考えられ、その調査成果は戦乱の世の緊張感を今に伝えてくれます。



堀の発掘調査の様子
作業も一苦労です。

※現在は発掘調査は終了し、
遺跡はすでに埋め戻されています。

→ 2・3月のイベント情報

2月

16日 埋蔵文化財センター速報講座 第1回
「甦る出土遺物 平成29年度保存処理成果から」
講師：埋蔵文化財センター職員

3月

1日 飯盛神社かゆ占 (西区大字飯盛 飯盛神社)
(県指定無形民俗文化財)

16日 埋蔵文化財センター速報講座 第2回
「発掘調査総まとめ 平成30年度市域内調査から」
講師：埋蔵文化財課職員

「飯盛神社 かゆ占」(県指定無形民俗文化財)

小正月の朝、神前に粥を供えて、半月後にそれを下ろし、表面に生えたかびの状態によって、その年の農作物の豊凶を占います。粥開きの朝はその結果を見ようと、近隣の農家からのたくさんの参詣者でにぎわいます。



福岡市 経済観光文化局文化財活用部

住所：福岡市中央区天神 1-8-1
TEL：092-711-4666 FAX：092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること	文化財活用課	TEL:092-711-4666
史跡の整備・活用に関すること	史跡整備活用課	TEL:092-711-4784
埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること	埋蔵文化財課	TEL:092-711-4667
埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること	埋蔵文化財センター	TEL:092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！



ふくおか 文化財だより



Vol.19 2019年2月号

～埋蔵文化財センターだより～

保存処理成果展がはじまります！

埋蔵文化財センターでは、発掘調査でみつかった木製品や金属製品の「保存処理」を行っています。保存処理とは、資料を博物館展示などの活用に耐えられるようにするため、科学的方法を用いて修復を行うことです。資料の状態を調査・分析し、その状態に応じて様々な修復方法を選択しながら、日々作業を行っています。

平成29年度に保存処理を行った資料を公開する保存処理成果展「甦る出土遺物展」を、2月5日(火)から5月5日(日)まで当センターで開催します。

今回の目玉は、仲島遺跡 5次調査 (博多区井相田) で出土した弥生時代の内行花文鏡です。この時期の福岡平野では完形の中国鏡の出土は少なく、貴重な資料です。鏡の背面に施された文様や文字も鮮明に確認できます。ぜひご覧ください。



仲島遺跡の内行花文鏡

また、2月16日(土)に保存処理担当職員による速報講座を行います。事前申込は不要です。気軽にお越しください。

福岡市埋蔵文化財センター ホームページ
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>



→福岡市の至宝・東光院の仏像群

～身近な文化財を見に行こう～

やくおうみつじ とうこういん
薬王密寺東光院は、約1200年前の平安時代に開かれました。本尊の薬師如来立像は、古くは「堅粕薬師」といわれ、室町時代には遠くから参詣者が訪れるなど、その信仰は全国的にも広がっていました。

この本尊のほか、明治維新の廃仏毀釈の際に住吉神社の神宮寺であった円福寺から移されてきた薬師如来坐像と十二神将立像は、美術史上貴重な資料として、国の重要文化財に指定されています。昭和56年に東光院は無住となりましたが、仏教美術品は福岡市美術館に所蔵され、寺跡は史跡として市が大切に管理しています。



東光院境内(博多区吉塚)
見学時間：9時～17時
休館日：年末年始
(12/29～1/3)

福岡市美術館は、2年間の工事を経て、3月21日(木)にリニューアルオープンします。東光院の仏像群が一堂に展示される「東光院仏教美術室」も、新たな空間へと生まれ変わる予定です。



東光院仏教美術室
(リニューアル前)

福岡市美術館の仏像群と史跡・東光院の両方を訪れて、市内屈指の古寺に思いをめぐらせてみませんか。

～埋蔵文化財発掘ミュージアム～

→弥生人の“ブタに願いを”

今年(2019年)の干支は亥(イノシシ)ですが、お隣の中国や韓国では、ブタ年といえます。これは、6世紀頃に暦が大陸から日本に伝わった際に、日本では干支の動物が入れ替わり、ブタがイノシシになったためといわれています。

そもそも日本にブタの飼育が伝わったのは、弥生時代とされています。博多区の雀居遺跡では中国の家畜小屋に似た、四角形に柵をめぐらした小屋が確認され、ブタとみられる骨も見つかっています。また、西区の元岡・桑原遺跡群では、写真のようなブタ(?)の形をした土製品が出土しています。

中国では、2000年前の漢の時代から、ブタは財産や子宝の象徴として縁起の良い動物と考えられてきました。元岡・桑原遺跡群は中国の銅銭が出土するなど中国文明との接点があった遺跡です。その影響を受けて、弥生人はブタの形の土製品を作り、豊作や子孫繁栄を願っていたのかもしれません。



元岡・桑原遺跡群42次調査出土の「ブタ」
(調査担当者はブタ形土製品と考えていますが、モデルになった動物については諸説あります。)

※紹介した出土品は、埋蔵文化財センターに収蔵されています。

～知る・守る・活かす 地域の宝～

→元寇防塁を守る地域活動

「元寇防塁」は、元軍の襲来に備えるために、鎌倉時代に築かれた石塁です。教科書にも登場するほど有名な元寇防塁は、市内10か所が国史跡として保存され、多くの人に見学してもらえるように整備・公開しています。保存しながら公開していくために欠かせない維持管理の活動は、地域の自治会などによって支えられています。

西区生の松原では、地元の生の松原地区元寇防塁保存会が中心となって、毎月1回、除草活動が行われています。



保存会による除草活動(生の松原)

同じく西区今津では、地元の今津元寇防塁松原愛護会とボランティアの人たちによって、清掃活動や松原の手入れが行われ、きれいな状態が保たれています。



高校生によるボランティア清掃(今津)

地域の宝である文化財は、このような地域のみなさんの献身的な活動によって、大切に守りつがれているのです。